

業界の割合は、電力自由化などの影響により2016年度は53.7%を占めるまでになった。ところで、環境などへの配慮を重視するESG投資の拡大により、化石燃料のうち二酸化炭素の排出が最も多い石炭の利用を控える動きが近年世界で強まっている。その影響を受けて、国内の発電会社が石炭火力発電所の建設計画を中止したり、国内企業が海外にある炭鉱の権益を売却したりするなど、石炭を燃料とすることへの逆風が強まっている。

表 9-3 世界の石炭貿易 (2016年)

輸出国	万 t	%	輸入国	万 t	%
オーストラリア・	38 930	29.9	中国…………… 1)	25 555	20.4
インドネシア…	36 958	28.4	インド……………	19 095	15.3
ロシア……………	16 612	12.7	日本……………	18 597	14.9
コロンビア……	8 333	6.4	韓国……………	12 789	10.2
南アフリカ共和国	6 994	5.4	ドイツ……………	5 776	4.6
アメリカ合衆国・	5 178	4.0	(台湾)…………… 2)	5 310	4.2
世界計×…………	130 315	100.0	世界計×…………	125 181	100.0

国連“Energy Statistics Yearbook 2016”による。無煙炭と瀝青炭のみ。1) 中国は褐炭を含む。2) 原資料ではその他アジアであるが、ほとんどが台湾。×その他とも。

表 9-4 世界の石炭産出高と埋蔵量 (単位 万 t)

	2000	2015	2016	%	可採埋蔵量 ¹⁾ (百万 t)	可採年数 ²⁾ (年)
中国…………… 3)	129 900	374 654	341 060	54.4	124 059	36.4
インド……………	31 370	63 923	66 279	10.6	85 562	129.1
インドネシア…	6 285	42 728	45 600	7.3	17 394	38.1
オーストラリア・	21 617	42 431	41 320	6.6	62 095	150.3
ロシア……………	15 254	27 803	29 495	4.7	69 634	236.1
アメリカ合衆国・	52 275	36 818	29 486	4.7	222 641	755.1
南アフリカ共和国	22 420	25 543	25 531	4.1	9 893	38.7
カザフスタン…	7 489	10 179	9 732	1.6	25 605	263.1
コロンビア……	3 814	8 555	9 051	1.4	4 881	53.9
ポーランド……	10 222	7 269	7 078	1.1	16 203	228.9
ベトナム…………	1 161	4 166	3 853	0.6	3 116	80.9
ウクライナ……	6 160	3 041	3 588	0.6	32 039	893.0
世界計×…………	328 011	661 687	626 643	100.0	698 660	111.5

国連“Energy Statistics Yearbook”および同“UN data”による。無煙炭と瀝青炭のみ。埋蔵量は世界エネルギー会議による2014年末現在の数値。日本の埋蔵量は340百万トン。1) 技術的、経済的に採掘可能な埋蔵量。2) 可採埋蔵量を2016年の産出量で割って算出。3) 生産には褐炭を含む。×その他とも。